資料　3

「空港運営に関する有識者懇談会」におけるヒアリング資料

稚内空港ビル株式会社

○　稚内空港の現状と課題について

・　会社の概要

資本金 4 億 9800 万円　　株主　25 名

稚内市 31.5%、ＡＮＡ18.1%、日本政策投資銀行 16.1%

北海道 10.0%、稚内信用金庫 9%　その他 15.3%

・従業員数　　5 名　　男 1 名　女 4 名（パート社員 1 名含）

・テナント入居状況

地方公共団体（警察）	1 機関	航空会社	1 社
物販店	3 社	航空機給油会社	1 社
交通及び観光連盟	6 社	ＮＴＴ	1 社

・売上高と内訳（平成 22 年度）

直接収入　　直営レストラン・自販機 11.5%

テナント収入　航空会社 74.9%　物販店　8.5%航空機給油会社 1.3%

交通及び観光連盟 3.5%ＮＴＴ0.3%

・売上高推移　　平成 22 年度　営業収益　160 百万円

平成 21 年度　営業収益　168 百万円

平成 20 年度　営業収益　177 百万円

・供用開始　　昭和 62 年 6 月　1 日　　建設費　700 百万円

増改築工事　平成 10 年 6 月 30 日完成　　工事費　678 百万円

・空港運営又は空港ビル経営における課題及びその解決に向けた今後の取組の方向性

・空港ビルとしての収入の減少傾向

→地域と連携した旅客誘致活動及びイベントをはじめとした集客活動の実施

・ターミナルの老朽化と国際線対応の不備

→計画的な保守と必要により改修・新設の検討

・冬期間の就航率の低下

→滑走路延長、除雪作業の強化と気象レーダーの設置

○　地域における空港の役割について

・　地域における空港の役割

・地域の経済活動

・国防と大規模災害時の拠点

・地域の高速交通ネットワークの拠点

・ **地域経済の活性化、雇用の拡大など地域貢献に対する会社の考え方と具体的な取組**

・行政はじめ諸団体との連携協力

・地元企業優先による業務委託及び仕入れ発注等により地域経済に寄与

○ **国の検討会報告書について受け止め**

・ **２つの方向性（真の魅力ある空港の実現、国民負担の軽減）**

・地方空港の魅力は空港単独ではなく地域の魅力が重要な要素である

・空港経営を一体することで効率的な運営により経費を削減し、サービスの向上や運賃の低廉化に繋がり利用しやすい航空交通となれば「国民負担の軽減」と考える

・**航空系事業と非航空系事業の経営一体化の推進**

・現状を変革し空港運営の一体化等の何らかの改革を図り、その効果を地域や国民に還元していく必要があると考える

・冬季便数の少ない空港は多額の除雪費が経営を圧迫する要因になるのではないか

・現段階では情報不足により全ての空港が運営を維持できるのか不安は残る

・ **民間の知恵と資金の導入とプロの経営者による空港経営の実現**

・官だけではなく民間の知恵と資金を活用していくことは少なくとも必要である

・情報不足の中、プロの経営者による経営は概念上は理解できるが、空港運営は強い公共性を有しているので経営の目的を明確にする必要がある

・ **複数空港の一体経営（バンドリング）**

・複数の空港の一体経営も手法のひとつであり、選択肢が多くなることはベター

○ **その他**

・ **民間企業として、経営上努力している点**

・最低限の役職員にての運営

・光熱費はじめ日常経費のコスト削減

・ **弊社からの御意見、御要望**

・就航率向上のため滑走路の延長と気象レーダーの設置

・空港民営化の検討にあたって空港機能存続のためのセーフティネットの検討